

2022-2024年度 中期経営計画

Change and Innovation with the Power of Chemistry

総合化学の力を結集し、社会課題の解決に貢献

本中期経営計画のスローガンについて、Change and Innovationは前中期経営計画から据え置き、副題をwith the Power of Chemistryとしました。

当社の最大の強みである事業・技術・地域・人材の多様性と、サステナビリティやデジタル革新など、当社を取り巻く環境変化がもたらす成長機会を掛け合わせることで、総合化学の「Power」を最大限に発揮します。

住友化学の強み
事業・技術・地域・人材の多様性



さらなる成長機会
社会変容に対応した広義のGXを推進

経営目標

	(億円)			
	2022年度実績	2024年度修正計画	2024年度当初計画	2024年度差異修正-当初
売上収益	28,953	30,000	30,500	-500
コア営業利益	928	2,000	3,000	-1,000
営業利益(IFRS)	-310	1,800	2,850	-1,050
親会社の所有者に帰属する当期利益	70	1,000	1,500	-500
ナフサ価格	¥76.600/kl	¥70,000/kl	¥50,000/kl	
為替レート	¥135.50/\$	¥130.00/\$	¥110.00/\$	

事業部門別コア営業利益

	(億円)			
	2022年度実績	2024年度修正計画	2024年度当初計画	2024年度差異修正-当初
エッセンシャルケミカルズ	-342	210	540	-330
エネルギー・機能材料	152	220	310	-90
情報電子化学	476	440	580	-140
健康・農業関連事業	573	790	840	-50
医薬品	162	440	730	-290
その他	-93	-100	0	-100
合計	928	2,000	3,000	-1,000

事業環境の悪化などを受け、中期経営計画の2024年度目標値を見直しました。エッセンシャルケミカルズ部門での交易条件の悪化、医薬品部門での新製品の拡販遅れなどの影響により、大幅な下方修正となりました。今後は数年遅れでの当初目標の達成を目指します。

本中期経営計画では、これまでの6つの基本方針に加え、既に全社横断プロジェクトとして開始している「カーボンニュートラルへ向けた責務と貢献」を加えた7つの基本方針を掲げています。ROI志向経営の徹底と全社横断プロジェクトの遂行により、個々の事業の強化や、GXを背景としたポートフォリオの変革、事業の新陳代謝の促進を行い、競争優位性の確立を目指します。

— 7つの基本方針 —

- ①事業ポートフォリオの高度化（事業の強化と変革）
- ②財務体質の改善
- ③次世代事業の創出加速
- ④カーボンニュートラルへ向けた責務と貢献
- ⑤デジタル革新による生産性の向上と事業強化
- ⑥持続的成長を支える人材の確保と育成・活用
- ⑦コンプライアンスの徹底と安全・安定操業の継続

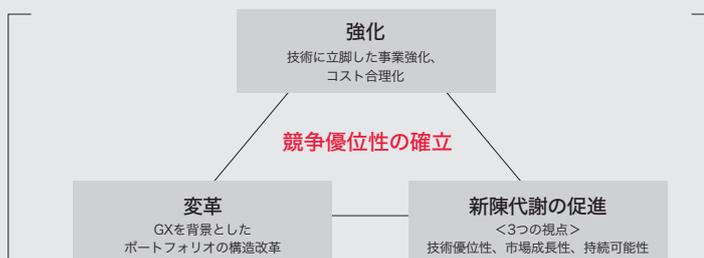
基本方針の全体像

ROI志向経営の徹底

- CF創出力/収益安定性の向上
- メリハリある資源投入
- 投資成果の確実な獲得
- CCC改善に向けた取り組み

全社横断プロジェクト

- DXの事業への実装
- イノベーションエコシステムの深化
- カーボンニュートラルに向けた責務と貢献の取り組み



事業ポートフォリオの高度化に向けた取り組み

成長事業の増強・強化

1 海外農業

■ リジェネラティブ農業(化学農業×バイオラショナル)

バイオラショナル製品や低環境負荷の化学農業の使用により土壌の健康を修復・改善しつつGHGの排出削減や生物多様性の維持・向上を実現する農業。

製品	取り組み・特長など
バイオラショナル製品群	●これまでのバイオラショナル製品群に加えて、バイオステイミュラント分野に本格参入(FBサイエンス社の買収等)
フルミオキサジン	●残効性に優れており処理回数が削減できるほか、幅広い雑草に効果を示すため、不耕起栽培にも適している
ラビディシル	●効果発現が速く、低薬量でも十分な効果を発揮 ●幅広い雑草に効果を示す等、不耕起栽培に適した性能を有す
種子処理剤	●農業処理量、処理回数削減を通して、環境負荷の低減に貢献

■ 新規殺菌剤インディフリン

散布時期等きめ細やかな技術指導による販売組織のフル活用や、製造体制の拡充、ブランド認知向上等により、2024年度400億円以上(2022年度比3倍以上)の売上を目指します。

2 半導体用製品

2023年度、2024年度の取り組み	
フォトレジスト	●増強プラント(2023年度 大阪、2024年度 韓国)の確実な立ち上げ ●ArF/EUVレジストの採用拡大に向けた研究開発促進
高純度アルミナ	●半導体製造装置向けセラミックス需要増加に対応した新グレードの拡販(強度や耐薬品性に優れる)

3 高機能材料群

2023年度、2024年度の取り組み	
LCP(液晶ポリマー)	●増強プラント(2023年度 愛媛)の確実な立ち上げ ●EV市場の拡大に合わせ、バッテリー・モーター用途でのシェア獲得を目指す
田中化学研究所	●EV市場拡大に伴う正極材前駆体の販売拡大
広栄化学	●新マルチプラントでの医薬品中間体や触媒での受託事業の積極的拡大
田岡化学	●高機能小型カメラレンズ向け樹脂の販売拡大

4 医薬品

■ 基幹3製品の拡販

オルゴピクス・マイフェンブリーにおける他社との提携効果の最大化や、ジェムテサの適応症拡大などにより、剤のポテンシャル最大化を図り、2024年度には3製品で2,000億円以上の売上収益を目指します。

事業体質の転換と合理化

1 構造改革

ディスプレイ材料	●製品ポートフォリオの一段の高度化 ●生産アロケーション最適化	合理化見込み* 100億円超/年
医薬品	●北米子会社の再編 7社の北米子会社を1社に集約 ↓ 効率性、コストシナジー等の追求により 収益力向上と事業基盤強化を図る	合理化見込み* 約4億ドル/年

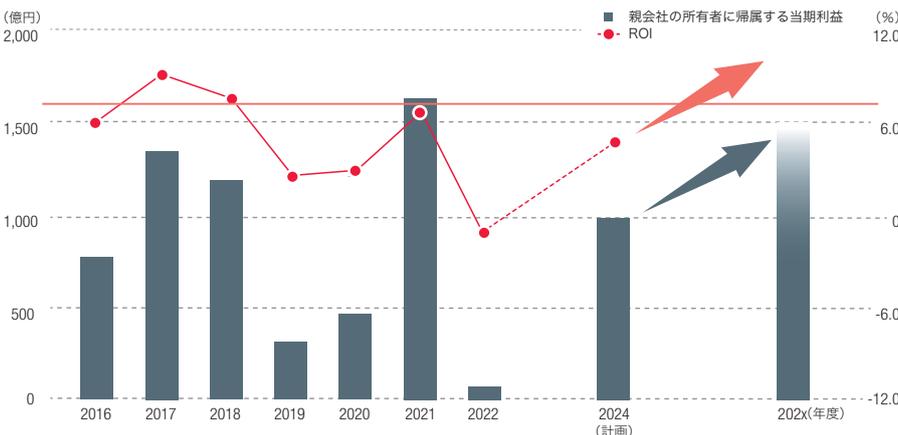
※2024年度における2022年度比の合理化見込み

2 撤退・縮小

カプロラクタム	撤退完了	EPDM	撤退決定済
染料	撤退完了	化成肥料	撤退決定済
シンガポールS-SBR	撤退決定済		

企業価値の向上に向けて

本中期経営計画での取り組みにより稼ぐ力を向上させ、次期中期経営計画以降でさらにそれを高めることで財務KPI目標を達成し、経済価値の向上を図ります。また、その事業活動を通じて、社会価値も一体的に創出することで、企業価値の向上を図ります。



財務KPI目標	
以下を安定的に達成	
ROE	10%以上
ROI	7%以上
D/Eレシオ	0.7倍程度
配当性向	30%程度